

令和4年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていると思いますか。	子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）
<p>【学校から】「1.一人一人の児童の尊重」では、肯定回答は、保護者は微増、教職員は昨年度と同じ、児童は5%減少しているが、児童の「そう思う」は10%増加している。「2.友達への思いやり」では、肯定回答は保護者は微増、児童は昨年同様、教職員は微減していた。「3.道徳・心の教育の充実」では、保護者の肯定回答は16%減、教職員は微増であった。「心を育む教育」特に1では、児童の感じ方の個人差が大きくなっていると考えられ、教職員は児童の実態に応じた関わり方が求められる。道徳教育においては、教職員の意識の向上を感じることができているが、コロナの影響で今年度も参観機会等が減少したため、保護者には伝わりにくかったことも考えられる。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用
子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
<p>【学校から】「4.意欲的な学習態度」での肯定回答は、保護者は4%増加、児童と教職員は4%減少した。「5.授業力向上」では、保護者の肯定回答は4%増、児童と教職員は昨年と同様で、教職員の肯定回答は100%であった。「6. ICT活用」では、保護者、児童ともに微増、教職員は微減であった。児童においては、全体での変化は少ないが、「そう思う」が7%増加していることから、家庭での活用の個人差が大きくなったと感じる。「②確かな学力を育む教育」は、ICTの活用による授業改革の推進が教職員の授業力向上への意識を高めていると考えられる。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり	①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実	9 いじめや問題への対応
子どもは、好き嫌いをなく食事し適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。	先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。	学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。
<p>【学校から】肯定回答は児童は微減、保護者は微増、教職員は昨年同様だった。就寝時間が遅くなっている児童の増加や、夏の暑い時期に外遊びができない日が続いたことなどの影響が考えられる。</p> <p>【学校から】「8.児童生徒理解」での肯定回答は、保護者は微減し、児童と教職員は微増であった。「9.いじめや問題への対応」では、児童と保護者の肯定回答は微減し、教職員の肯定回答昨年同様であった。「①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実」に関して、9では児童の「そう思う」が昨年より17%、9では3%増加している。日常的な教職員から児童への声かけや、教育相談の効果が出ていると感じるが、全体の肯定回答が微減していることから、困っている児童、対応してほしいと感じている児童がより相談しやすい体制づくりをする必要があると考える。</p>		

④特別支援教育の推進

10 学校の支援体制	11 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。
<p>【学校から】「10.学校の支援体制」では、保護者の肯定回答が微減し、教職員の肯定回答は微増であった。昨年度より新設された「11.共生社会を担う人材の育成」では、保護者、児童、教職員ともに肯定回答微増であった。「④特別支援教育の推進」については、児童の相互理解と教職員の研修、保護者への啓発をすすめ、特別支援教育への共通理解・相互理解を進めていきたい。</p>	

⑤子どもたちの身近な安全対策の充実

12 安全と事故防止	②最適な学習環境の整備
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	13 施設・設備の安全管理 学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。
<p>【学校から】保護者、児童、教職員すべての肯定回答は、微増していた。概ね事故防止などの安全教育は進められていると考えられる。今後も、事故防止について生活の中で考えられる機会を大切にしていきたい。</p> <p>【学校から】児童の肯定回答は8%、保護者は4%増加、教職員は昨年と同様であった。老朽化が進んでいるが、教職員が常に整備・管理を進めており、修理箇所等は学校主事補助と中心に随時対応できている。</p>	

③家庭・地域社会との連携強化

<h4>14 教育方針・目標の理解</h4>	<h4>15 家庭や地域との連携協力</h4>
<p>学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。</p>	<p>学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。</p>
<p>【学校から】「14.教育方針・目標の理解」では、児童と教職員の肯定回答は微増で、保護者の肯定回答が微減した。「15.家庭や地域との連携協力」では、教職員の肯定回答が微増し、保護者は微減であった。「③家庭・地域社会との連携強化」は、保護者の肯定回答が微減であった。コロナ禍での学校行事等は少しずつ回復し、保護者と接する機会も増えてはきたが、今後の連携を工夫していく必要があると感じる。</p>	

⑧本校の教育

<h4>16 挨拶への取組</h4>	<h4>17 「いいね」があふれる取組</h4>	<h4>18 情報提供</h4>
<p>先生方は、あいさつの指導に力を入れていると思いますか。</p>	<p>先生方は、互いを認め合う「いいね」があふれるような取組に力を入れていると思いますか。</p>	<p>学校は、安心メールや学校便り・学級便りなどで情報提供に努めていますか。</p>
<p>【学校から】「16.挨拶への取組」では、児童の肯定回答は微減で、保護者は微増、教職員は昨年同様であった。「17.いいねがあふれる取組」では、児童の肯定回答が微減し、保護者と教職員の肯定回答が微増した。「18.情報提供」では、保護者は昨年同様、教職員は微増した。「⑧本校の教育」は、児童と保護者には昨年同様に伝わっているものと考え、教職員は、更なる充実を求める意識の向上を感じることができる。</p>		

来年度の具体的な取り組みについて

○豊かな心を育み好ましい人間関係を築く力をつけるために、児童同士の対話を取り入れた活動を互いに知る機会を増やし、友達のよいところや、友達同士協力すればできること等を具体的に伝え合える機会を設ける。道徳の授業の活性化・児童が活躍する集会活動等の特別活動、児童が主体的に進める学校行事等の充実を図り、「いいね」と認め褒める場面を大切にすることで、自己肯定感や他者理解を進め、支持的風土を持つ集団づくりに取り組む。

○確かな学力を育むために、熊本市学力検査の結果を分析するとともに、少人数指導や教科担任制・交代授業等の推進を図り、教師の専門性や授業力の向上を図る。また、ICT活用の研究を進め、児童が主体的に学ぶ支援ツールとしての効果的な活用に取り組む。既習事項の定着化のためのドリルパークを活用した取組及び家庭学習の習慣化をすすめ、基礎学力の定着を図っていく。

○健やかな体を育むために、体育の授業で体づくりの運動を取り入れるなどの工夫する。次年度は運動場の改修工事があるため、外遊びにはかなりの制限がある。中庭や体育館等を割り振り、限られた環境の中で体を動かすにはどうしたらよいか、子どもたちに遊びの情報を提供したり、子どもたちが遊びを考える場を作ったりするなど、工夫をしていきたい。また、健康な生活習慣の確立を図るために、日常の感染症対策を定着させ、健康タイムの継続と、食育の推進等を図り、家庭とも連携し、健やかな体を育む教育を進めていく。

○児童一人一人を大切に教育を進めるために、心のアンケートをはじめ教育相談期間を設定する。また、SCや専門機関との連携を図るなどして、児童が安心して相談できる環境を充実させる。さらに、自分らしさを発揮できるように、係活動など、一人一人の個性が活かせる学級づくりを進める。

○特別支援教育の推進のために、合理的な配慮に基づいて教職員が連携し、個に応じた支援を徹底していくとともに、教職員の研修を進めて、支援の充実を図る。また、人権教育部を中心にして「いいね」の取り組みを推進する。

○学校の教育活動を学校だよりや学級通信等を発行したり、保護者と密に情報交換したりして、保護者と協働する教育活動を進める。

学校関係者評価

○授業参観をしてみて、全体的には落ち着いて学習していた。一部、一斉での学習が困難な児童がいたが、先生方がしっかり対応されていると感じた。

○児童の挨拶の状況も年々良くなっている。なかなか大きな声で挨拶ができない児童もいるが、交通指導で毎日声をかけていると、子どもたちが覚えてくれて、挨拶をしてくれるようになった。挨拶以外に、いろんなことを話してくれて嬉しい。

○学校評価の結果は、昨年同様が多かった。保護者の学校教育への関心度はどのようなものだろうか。コロナ禍の影響もあり、年々、保護者の関心が下がってきているように思える。保護者の学校や地域への協力が減り、学校に対する依頼心も大きくなってきているのではないだろうか。

○保護者の共働きも増え、地域とのかかわりも減り、親同士のコミュニティーを大切にしていけることが必要だと感じる。授業参観や学級懇談会など親同士が顔を合わせる機会が減ったことや、地域行事もほとんどできていないことが残念である。

○授業で子どもたちがタブレットを使いこなしていることに驚いた。ますます活用が増えるだろうが、子どもたちの就寝時間が遅くなっていることとタブレットは無関係ではないのではないか。家庭と連携して正しい使い方を学んでいかなければ心配である。

○不登校児童の増加や遅く登校する児童の存在が気になる。家庭との連携が難しいところだが、子どもたちには健やかに学んでほしい。

表紙シートへ
もどる